

大通公園 基本計画 中間とりまとめ（案）

1. 計画条件の整理	
1-1 はじめに	P1
1-2 位置図	P1
1-3 経緯・主な課題	P2
2. 計画の考え方	
2-1 テーマ・コンセプト	P3
2-2 全エリアに共通するキーワード・考え方	P3
2-3 与条件の整理	P4
3. 各種計画	
3-1 将来イメージ	P5
3-2 空間計画	P6
3-3 植栽計画	P7
3-4 施設計画	P8
3-5 環境計画	P10
3-6 管理運営計画	P11
4. 今後の検討課題	P12
5. 将来像に向けた進め方	P13
6. 巻末資料	
・これまでの検討経緯と今後のスケジュール	P14
・大通公園アドバイザーボード委員名簿	P14
・市民意見の報告	P15

1. 計画条件の整理

1-1. はじめに

目的

札幌の都心は、約150年前に火防などを目的に道路として整備された大通を基軸にまちづくりが進められ、発展を続けてきました。その中で大通公園は、火防線から逍遙地（散策する場所）、市民のための活動空間（市民が過ごせる空間）、そして都市公園へと、時代に合わせて姿を変えながら変遷してきました。

現在、大通公園周辺では、札幌オリンピックが開催された昭和47年（1972年）頃に建設された建物が更新時期を迎えていることから、各所で建物更新の動きが活発化しています。大通公園も平成元年（1989年）から6年をかけて実施した再整備から約30年が経過し、施設全体の老朽化が進んでいます。また、イベントの種類や期間が増えるなど、公園全体の使われ方が変わってきているほか、時代の変化とともに人々の価値観やライフスタイルも変化し、公園に求められる役割そのものも変化してきています。

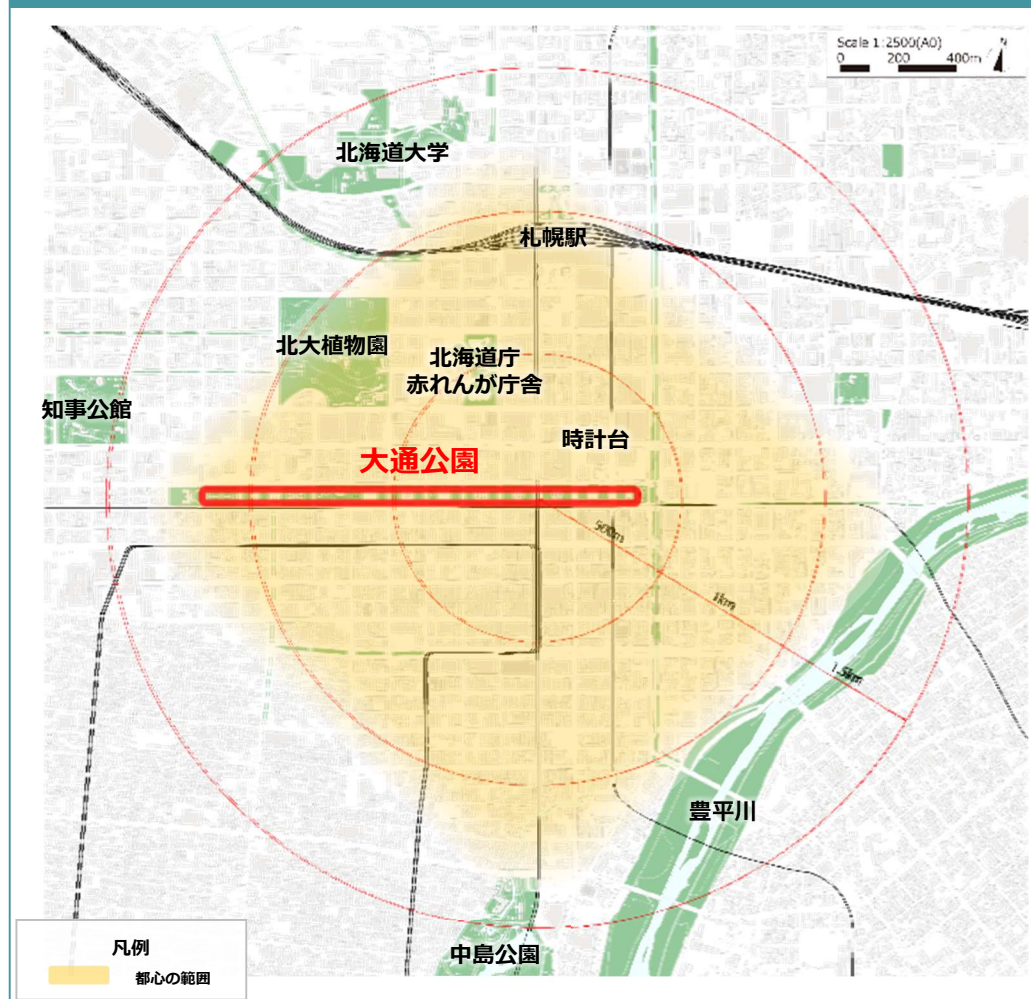
このような背景の中、まちとともに姿を変えてきた大通公園について、これまではぐくまれてきた価値を継承しつつ、さらなる魅力と活力にあふれる空間へと発展させていくため、令和7年（2025年）3月に「大通公園のあり方」を策定しました。

この「大通公園のあり方」で掲げた魅力と機能の向上を図り、象徴的な空間を創出するため、将来像を具体化した基本計画づくりに着手します。



1-2. 位置図

位置図



公園の現況平面図



【所在】 札幌市中央区大通西1～12丁目

【面積】 78,901㎡

【種別】 特殊公園

1-3. 経緯・主な課題

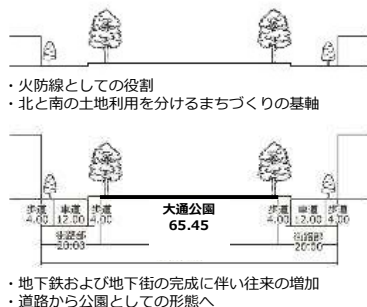
概要・経緯

【変遷】	
明治 1868～ 1912年	- 明治4年（1871年） 火防線等を目的に広幅員の道路を整備 - 明治42年（1909年） 長岡安平により整備計画が立案 - 明治44年（1911年） 西3～7丁目において本格的な公園整備
大正 1912～ 1916年	大正15年（1926年） 札幌控訴院新築
昭和 1926～ 1989年	- 昭和25年（1950年） 第1回さっぽろ雪まつり開催 - 昭和35年（1957年） テレビ塔完成 - 昭和43年（1968年） 札幌市創建百年記念事業として西1・2丁目の公園化 - 昭和55年（1980年） 都市公園法を適用して大通公園として告示

明治～昭和期：火防線として整備され、その後に逍遙地・市民のための活動空間・都市公園として変遷

【設計思想】自然的目付、逍遙的な景観形成

- 自然地形を活かし人工を抑え、土地に適した樹木を植えてメリハリのあふれる景観の移り変わりを楽しめる逍遙的な景観
- 自然を重視しつつ、美観と利便性にも配慮した設計手法

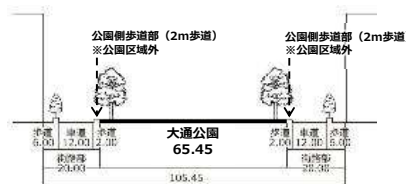


平成期：象徴空間としての一体整備

【設計思想】

テーマやゾーンを設定し、公園機能が高めるための整備

- 札幌の都市軸として歴史的に形成された都市空間の価値の継承
- みどりにあふれ水にふれることのできる都心のオアシスとしての機能の充実
- 人々が集い交流し、多彩なイベントが行われる空間の形成
- 都市と自然の融合を図り、緑・花・水・光などの演出
- 札幌の都心景観にふさわしいデザインの採用



令和期：これまではぐくまれてきた価値を継承しつつ、さらなる魅力と活力にあふれる空間へと発展

【取組の方向性】

- 都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり
- 文化・芸術・歴史資源と集客交流機能に寄与するみどりづくり

主な課題

(出典：大通公園のあり方（2025年3月）より）

■大通公園の魅力と機能の向上

- みどりの軸を意識しながらも、沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討、腐朽木・老木への対応や鬱蒼とした樹林環境の改善が必要。
- 老朽化施設全体に対するこれ以上の現状維持は限界を迎えている。
- 都心にふさわしい質の高い公園の設えが求められている。
- 柔軟な管理運営手法の検討や活用が求められている。

■「いこい」と「にぎわい」の両立

- イベント開催時においても一定程度の日常利用が可能となるような空間（設え）やイベントの準備期間短縮につながるような施設整備についての検討、またイベントそのもののあり方や受入条件、時間的・エリア的な空間の有効活用等についてソフト面においても検討が必要。
- 保育園児の利用を始めとする多様な日常利用のニーズを受け止めていくことが必要。

■沿道と連携したみどりの軸の強化

- 近年の沿道施設は、全体として沿道のみどりの量は少なく、みどりによる一体的な空間創出に課題。
- みどりの軸を意識しながらも、沿道との一体感を醸成できる適切な緑量の検討が必要。
- 大通公園周辺の地下空間（通行機能）は充足しているものの、地下空間から大通公園が認知しづらい。
- 大通公園と沿道の空間的な一体感に欠け、利活用およびにぎわいの連続性が不足している。
- 公園側歩道部（2m歩道）は歩行空間とも緑化空間とも言えない中途半端な空間になってしまっており、沿道に対する裏側感も生じさせている。

基本計画の位置付け

第4次札幌市みどりの基本計画
令和2年（2020年）3月札幌市都心のみどりづくり方針
令和5年（2023年）10月大通公園のあり方
令和7年（2025年）3月

大通公園基本計画

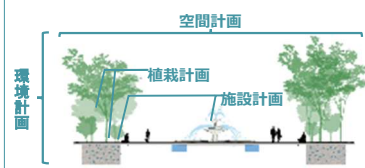
調査・検討事項、現況・課題の確認

- 平成の再整備における考え方
- 公園施設の現況調査
- 樹木調査 簡易診断
- 測量調査
- 市民意見 観光関連団体意見
- 大通公園の現況および課題

その他関連する計画

- 第3次都心まちづくり計画
- Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョンなど

基本計画の構成

平成
1989～
2019年

- 平成元年（1989年）
大通公園リフレッシュ事業により再整備（～1994年完成）
- 平成5年（1993年）
イサム・ノグチの彫刻「ブラック・スライド・マントラ」を設置
- 平成23年（2011年）
大通公園100周年



現在の大通公園

出典：さっぽろ観光写真ライブラリー

令和
2019年～

- 令和5年（2023年）
大通およびその周辺のまちづくり方針
札幌市都心のみどりづくり方針策定
- 令和7年（2025年）
大通公園のあり方 策定

2-1. テーマ・コンセプト

大通公園のあり方： ^{インクルーシブ} **Inclusive “Green” Corridor** ^{グリーン} ^{コリドー} ～誰もが思い思いに過ごせるみどりの空間～

防火帯から市民の憩いの場となり、公園・道路・沿道が一体となった空間形成を目指している背景を踏まえ、今後もみどり豊かな空間であるとともに、多様な価値観を受け入れ、誰もが互いに尊重しあうこれからの時代にふさわしい象徴空間を目指す

01
過去と未来を
重ね合わせる

02
日常と非日常を
重ね合わせる

03
都心のみどりとまちなみを
重ね合わせる

04
一体性と個性を
重ね合わせる

05
公共と民間の強みを
重ね合わせる



出典：大通公園のあり方（2025年3月）より

2-2. 全エリアに共通するキーワード・考え方

受け継ぐもの

1

レガシーの継承・強化
(連続性・ビスタなど)

変えていくもの

2

公園全体で機能する
グリーンインフラ

創り出すもの

3

周辺街区との
つながり

2-3. 与条件の整理

【近隣土地利用】

- 本公園は、官公庁・文教・業務・商業といった用途の異なる街区に囲まれており、丁目構成や南北方向によって土地利用の性格が分化している。**1～5丁目は商業施設、6・7丁目は業務施設が中心であり、8～12丁目では南側に住宅・業務施設、北側に官公庁・文教施設が多く分布している。**

【みどりのネットワーク】

- 東西に連続する豊かな緑の帯を形成。**北海道庁や北海道大学植物園、創成川公園、札幌市資料館、北海道知事公館などの、まとまりのある豊かな緑地と隣接することで、公園と連続したみどりのネットワークが形成され、広域的なエコロジカルネットワークの形成に寄与している。**

【地歴】

- 本地区の地歴を読み解く上で、「MEM」に象徴される**水の存在は重要な要素**となっている。古地図の分析から、旧河川の流路を確認することができ、現在の都市構造の背後にある水系の痕跡が読み取れる。

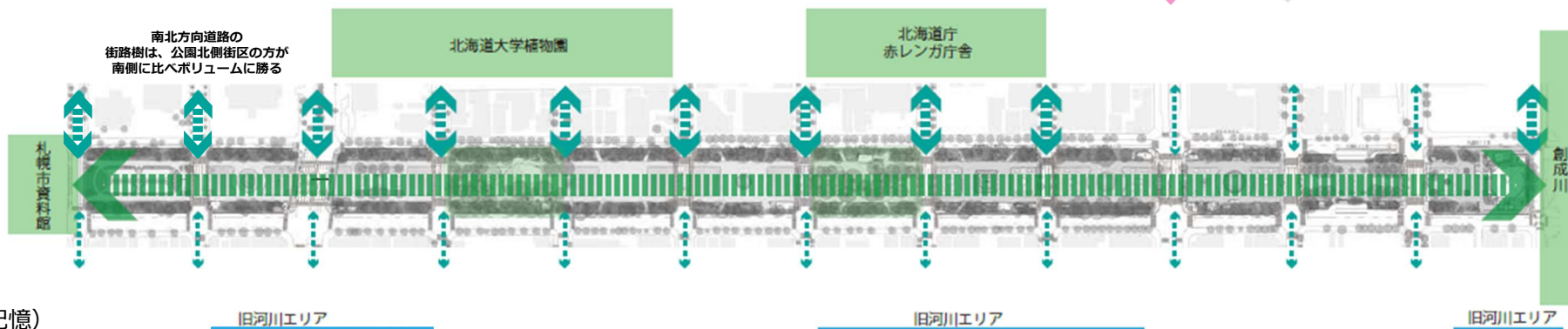
【南北の透け感（見通し）と東西ビスタ】

- 南北方向においては、丁目ごとの樹木および構造物の配置差により、公園内への見通しに基づく開放性に差異が認められる。一方、東西方向を貫くビスタにおいても街区ごとに強弱が確認され、両者が重層的に作用することで、各丁目の特性が現れる空間構造が形成されている。

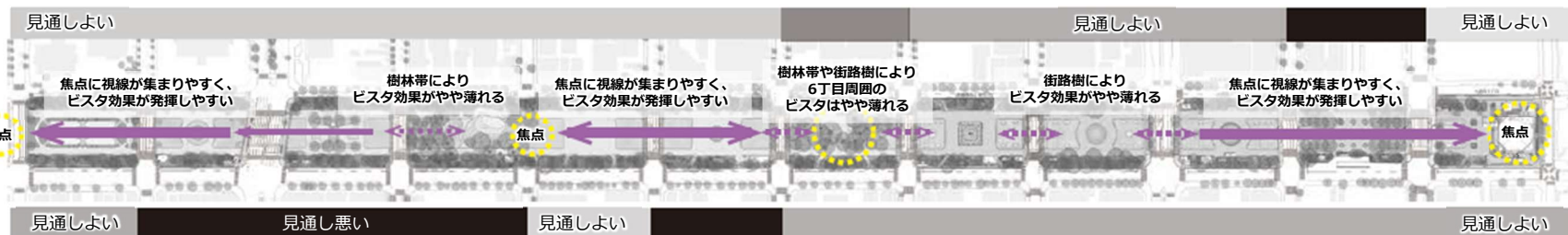
近隣の土地利用



みどりのネットワーク

地歴
(自然地形・水の記憶)

北側境界部の透け感



ビスタ、焦点

南側境界部の透け感

3-1. 将来イメージ

西11-12丁目

- 西11丁目は地下鉄出入口を有する交通結節点であることを踏まえ、歩行者動線に配慮し、路面の排水性を高める浸透型の植栽帯を創出
- 西12丁目は市民に親しまれているバラ園を継承

西10丁目

- 地下鉄出入口を有する交通結節点であることを踏まえ、歩行者動線に配慮し、路面の排水性を高める浸透型の植栽帯などを創出

西8-9丁目

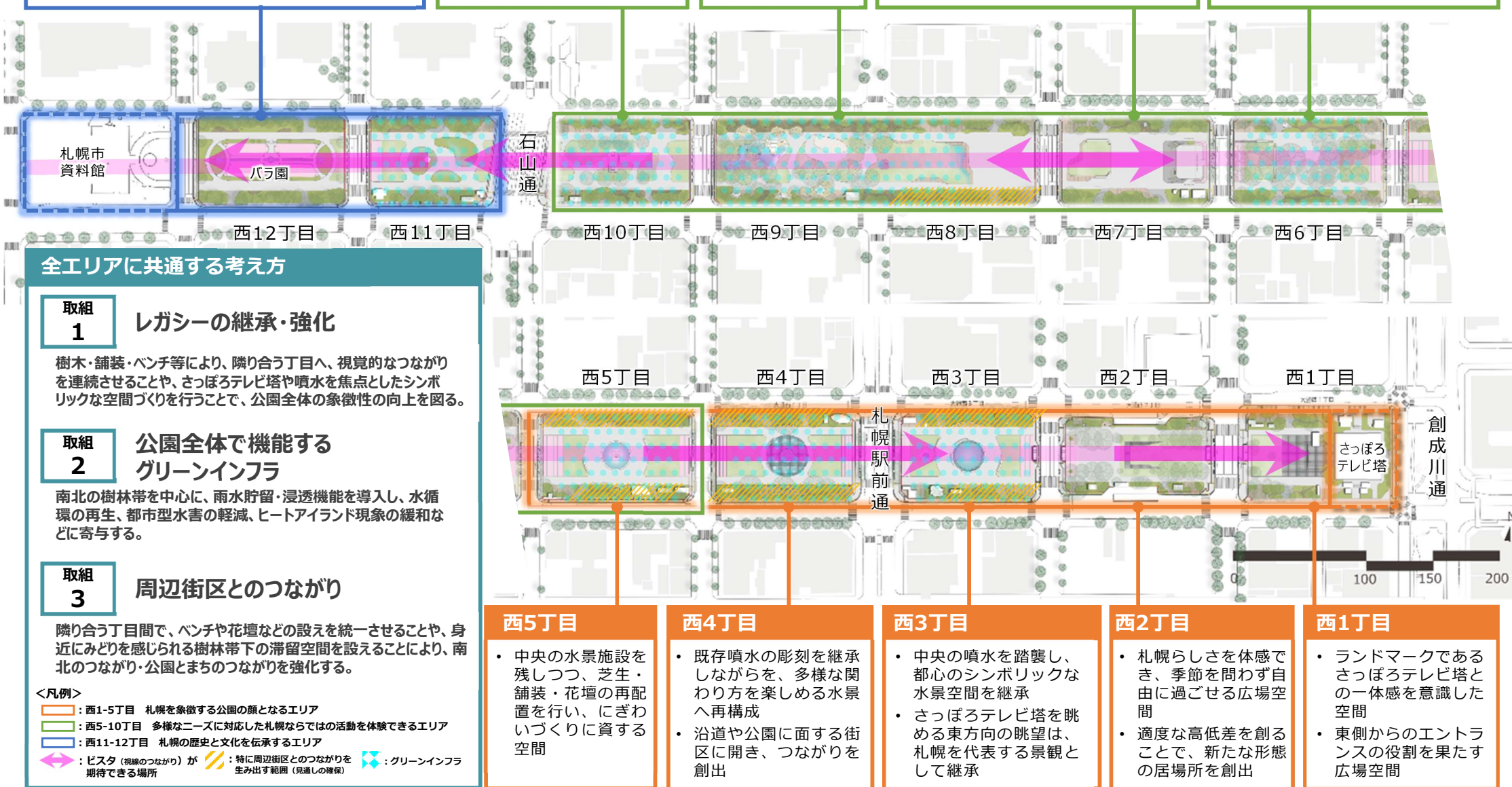
- 芝生広場・水遊び場・遊具広場などによる遊びを中心とした憩い空間

西7丁目

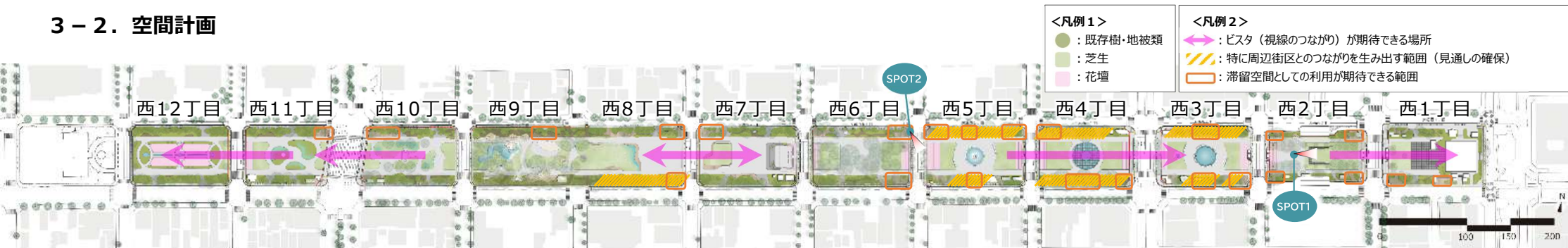
- 隣り合う丁目と大きなつながりと連続性を確保するため、広場空間を拡充するとともに、高低差を活かした多目的な活動空間（噴水施設の廃止も含めた検討）

西6丁目

- 樹齢140年のケヤキを活かした木陰でイベント時にも快適に過ごすことができる空間（公園利用者と歩行者動線が交差するため既存ステージの撤去を検討）



3-2. 空間計画



空間計画の考え方

- 重要なレガシーの一つである**直線的な園路およびビスタを継承し、ランドマークであるテレビ塔などへの視線のつながりを確保・強化**する。
- 3・4・5丁目は、商業施設やホテルが集積する周辺街区とのつながりを強める拠点とする。その他の丁目においても、沿道の土地利用の状況や公園内に整備する新たな活動空間によるにぎわい創出を踏まえ、これらも周辺とつながりを生む拠点として位置付ける。
- 特に、つながりを生む箇所では、**公園の角部を開放し南北の見通しを確保した、樹林帯の滞留スペースを整備**する。これにより、**周辺の街区や道路との一体感を高め、人々が回遊し、心地よく滞留できるにぎやかな空間を創出**する。

取組 1 レガシーの継承・強化
(連続性・ビスタ)

【ビスタの強化】

- 東西方向の園路において、ビスタ（視線的なつながり）を、樹木・舗装・ベンチ等により強化する。



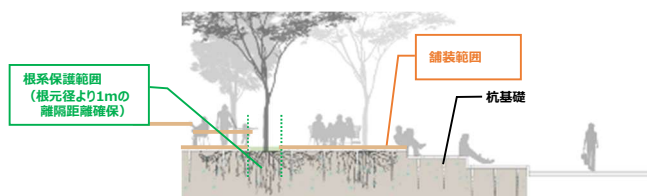
【テレビ塔を見せる“引き”】

- テレビ塔全体を周囲の緑とともに鑑賞しやすい空間形成やテレビ塔を背景に多様な体験ができる場を形成する。

取組 2 公園全体で機能する
グリーンインフラ

【南北樹林帯下の滞留空間】

- 樹林帯下の滞留空間については、高木幹の外周から0.5～1.0m以上の離隔を確保することや杭基礎を用いて樹木への影響を抑える。また、バイオスウェルなどによる雨水涵養を組み合わせることで、樹木の生育環境を活かした緑陰を享受する滞留空間を創出する。



断面イメージ

取組 3 周辺街区との
つながり

【周辺街区とのつながり強化】

- 隣り合う丁目間で花壇・ベンチ等の設えを合わせ、つながりを強化。併せて、公園に面した街区や沿道からの視認性・アクセス性を向上させる。



【沿道とのつながり強化】

- 幹線道路沿いの公園角部や沿道とのつながりを強化する地点に重点を置き、滞留空間を整備する。樹林環境に配慮した施設を配置することで、滞留機能の向上と南北の連続性を高める。
- 夜間の落ち着きと居心地の良さを両立した照明計画により、快適な空間を創出する。あわせて、適切な照度と良好な視界を確保し、誰もが安全に歩行できる環境を整える。



3-3. 植栽計画



植栽計画の考え方

- ・ 樹木の計画的な剪定、支障が予想されるような樹木の移植・伐採、早生樹種の樹種更新などの対応を行うことや、生長などによる変化を見越した維持管理を行うことを目指すべき方向性とする。
- ・ 花壇・芝生を街区ごとにメリハリをつけ、空間の広がりと魅力を感じる環境を整える。街区間で連続して感じられる景観として整え、公園全体の一体感が伝わる構成とする。
- ・ 適切な緑量の調整や、樹林帯に人がたたずめる心地よい空間を設けることで、まちの日常風景が重なり合う外向きの空間を創出する。

取組 1 レガシーの継承・強化（連続性・ビスタ）

【市民・企業参加型の花壇の継続と魅力の向上】

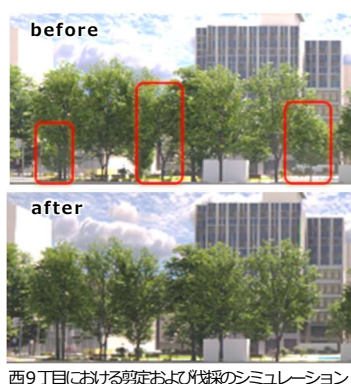
- ・ 公園全体に満遍なく配置されている花壇・芝生についてはメリハリをつけることで、鑑賞性の向上・メンテナンス性の向上に寄与し、空間の広がりや魅力を感じる環境を整える
- ・ 街区間で呼応する花壇配置とし、丁目を越えて連続して感じられる景観として整えることで、歩くほどに公園全体の一体感が伝わる構成とする。沿道側では、各丁目の特性に応じたバリエーション豊かな花壇を街区のフロンテージ（街への表情）として際立たせ、「街区の顔」をつくり出す。



取組 1 レガシーの継承・強化（連続性・ビスタ）

【既存樹木の取り扱いについて】

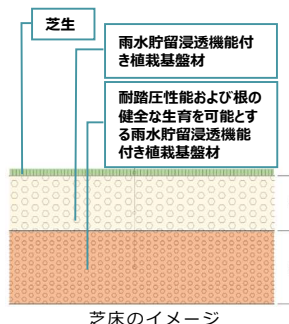
- ・ みどり豊かな憩いの空間を維持・継承するため、健全な生育が見込めない樹木、健全性の低い樹木、他の樹木の生育に好ましくない影響を与える樹木は、剪定および伐採を行う。剪定は、樹高10～15mを目安とする。
- ・ 樹木調査により「危険または要対策」、「要注意A（形状比H/D ≥50以上（＝細長い形状））」と診断された樹木は、伐採や剪定等の検討対象とする。



取組 2 公園全体で機能するグリーンインフラ

【保水性の高い芝床と表層の保護】

- ・ 山砂および礫を主体とする現在の大通公園の芝床構造を維持し、強化する。
- ・ 雨水の浸透性を高めながら、根の健全な伸長を可能とする基盤を導入し、人の歩行などによる踏圧に耐える芝生の生育を促す。
- ・ 高木が連なる樹林の下は、地被植物により、踏圧による表層の固結を防ぎ、雨水浸透を促進する。
- ・ 新規植栽や樹種更新の際には、生物多様性の向上に配慮し、高木・中木・低木・地被植物を組み合わせた多層構造の観点や地域に適した樹種の選定を進める。



取組 3 周辺街区とのつながり

【見通しや質の高いみどりの創出について】

- ・ 南北の公園沿道で視線を遮っている樹木は、緑量を維持しながら適度に間引きや移植を行い透過性を高め、各丁目の特性に応じて公園内外の遮蔽を抑え、見通しを確保する。
- ・ ライラックなど陽当りを好む樹種は、環境条件に応じ再配置を検討する。



西4丁目北西部

西4丁目中央部

3-4. 施設計画（水景施設）



施設計画（水景施設）の考え方

西12丁目

- ・ カナルは鑑賞性が高い水景施設として、平成のリフレッシュ工事で整備されたコンセプトを踏襲し、**現状をベースとして継承**する。

西10・11丁目

- ・ 広場としての利用にも配慮しながら、**浸透型の植栽帯等を配置し、みどり**と**水に関する環境価値**を引き出す
- ・ 西11丁目の既存水景施設は廃止も含めて検討する。

西9丁目

- ・ 子どもに親しまれている親水性の高い遊水路は、**遊び場としての機能を継承**する。

西6・7丁目

- ・ 平成のリフレッシュ工事において設置された水景施設は、多様な使われ方の空間として**見直しを図る。廃止も含めて検討**する。

西5丁目

- ・ 設置経緯や公園の使われ方を考慮し、**現状をベースとして継承**する。

西3・4丁目

- ・ 円形の平面形状や中央の**モニュメント等を継承しながら、水との関わり方や距離感を選んで楽しめる水景へと再構成**し、変化を持たせた魅力の向上を図ることで、周辺のにぎわいを牽引する。
- ・ **広場としての利用**や、時間や季節で変化のある設えにより、訪れるたびに異なる風景を楽しむことができる空間とする。

西2丁目

- ・ 壁泉は鑑賞性が高い水景施設として、平成のリフレッシュ工事におけるコンセプトを**継承**する。

【再整備により変えていく水景施設の考え方】

- ・ 水景施設は「受け継ぐもの」「変えていくもの」「創り出すもの」の観点で再整理することとし、より明確な方向性を示す。
- ・ 現況から「変えていくもの」については、イベント時においても水景施設の魅力を感じながら多目的な空間の活用を目指す。

西6・7丁目	西4丁目	西3丁目
 西6丁目 ・ 彫刻の周りには池であり、平成の再整備において設置した。水に触れることができず、樹木の陰に隠れている。 西7丁目 ・ ビスタを強調するため、既存の小噴水に代わって、平成の再整備において設置。親水性は9丁目と機能が重複し、修景性は他の丁目と機能が重複する。	 西4丁目 ・ 水しぶきが周りにはねるため、歩行者からの苦情多く、イベント時は停止している。 ・ 円周の立上り部分は、園内で禁止されているスケートボードでの遊びに利用されていることがある。	 西3丁目 ・ 水中ポンプを多用しているため、凍結防止のための作業に多額の作業費がかかる。 ・ 最大10mあがる仕様であるためポンプが大きい。 ・ 水中にノズルが多数突出しており、危険が伴うため、立ち入り制限金物を設置している
・ 多様な使われ方の空間とし見直しを図る。廃止も含めて検討する。	・ 水との関わり方や距離感を選んで楽しめる水景へと再構成し、広場利用にも対応する柔軟性を持たせる。	

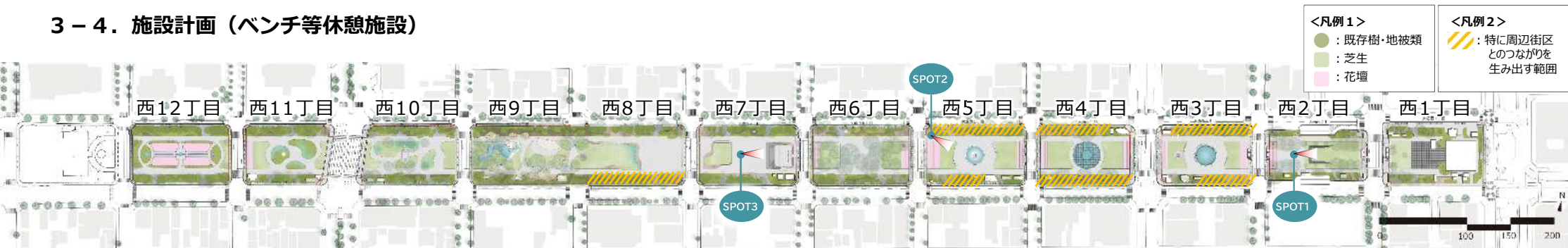
【可変性のある水景施設の考え方】

- ・ イベントと日常利用を両立するデザインについては、時間帯や利用シーンに応じた空間の使い分けを意識し、可変性を持つ水景施設の導入を積極的に検討する。
- ・ 水盤はフラットに見える薄層水景とし、周囲の段差を抑えることで回遊・滞留しやすい快適な空間をつくる。また、通水を停止すればイベント時には広場として利用できるよう切り替えが可能となり、多目的な活用をより強力に促す。



可変性のある水景施設のイメージ

3-4. 施設計画（ベンチ等休憩施設）



施設計画の考え方

- ・樹木の根の生育に配慮しながら、利用者誰もが滞留できる空間を創出する。
- ・段差部にはスロープを併設し、車いす利用者やベビーカー利用者等が円滑に移動できる動線を確保し、既存トイレは誰もが使いやすい仕様への更新を図る。
- ・階段状ベンチ等により、利用者が目的に応じて居場所を選べる、多様な滞在を受け止めるインクルーシブな環境を形成する。
- ・構造物を設置する場合は、景観へ配慮し、求められるサービスに対応するよう努める。

取組 1 レガシーの継承・強化（連続性・ビスタ）

【テレビ塔を望むことができる芝生空間】 SPOT1

- ・ テレビ塔を望む芝生広場を整備し、レベル差を設けることで掘り込み部を腰掛け空間として活用でき、眺望性と日常的な憩いを両立する場を創出する。



取組 3 周辺街区とのつながり

【公園とまちとのつながりを生む空間】

- ・ 樹木の健全な生育環境と滞留空間の共存を図る。既存樹木の根元近くまで人の居場所として整備することで、緑に包まれた居心地の良い屋外空間を創出する。



取組 3 周辺街区とのつながり

【自由に居場所を変えることができる空間】 SPOT2 SPOT3

- ・ 可動式のいすやベンチを配置し、日常の多様な滞在を促しつつ、イベント時にも柔軟に使える可変的な空間をつくる。
- ・ イベント時の柔軟なレイアウトと公園の日常利用の両立を図るため、ベンチや園路のデザインに配慮し、イベント用の給排水設備などの設置を検討し、仮設物を減らすことで、空間の使われ方に変化を生み出す。
- ・ 両義性のある遊具や休憩施設を設置し、多用途性を持たせ、年齢や活動に応じて自由に使える配置とすることで、利用者の多様な滞行動を受け止める柔軟な空間形成を図る。
- ・ 西7丁目に計画する高低差を活かした多目的な活動空間では、イベント等の利用が無い期間においても、壇上の空間に腰を掛けて休むことができる設えを検討する。



【四季を通じてさまざまな時間帯にも楽しむことができる空間】

- ・ 照明ポール、車止めやベンチなどは、統一感あるシンプルなデザインとする。
- ・ 照明設備は、適切な配置・光量・配光とし、快適で品格ある空間を演出して夜間利用に応える。
- ・ 冬季は、薄層水盤を止めることでイルミネーション等を設置する広場利用を想定。ベンチを移動することにより、積雪時であってもより広い広場として使える空間や安全に歩行できる動線を確保する。



夜間の噴水のイメージ

札幌市資料館

西12丁目 西11丁目 西10丁目 西9丁目 西8丁目 西7丁目 西6丁目 西5丁目 西4丁目 西3丁目 西2丁目 西1丁目

SPOT1 みどりのネットワーク

SPOT1 ケヤキの継承

北海道大学植物園

北海道庁・赤レンガ庁舎

創成川公園

：芝生
：花壇

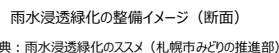
：みどりの連続（既存街路樹等との一体的なつながりを考慮）

100m 200m

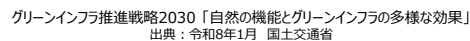
- ・公園周辺の緑と連続した鳥類や昆虫などの生き物の生息環境を保全することで、**エコロジカルネットワークの形成**を図る。
- ・雨水の貯留・浸透を促進する地盤面の形成を推進し、豊かな緑陰との相乗効果により、**都心におけるクールスポットを創出**と**インフラ負荷の軽減**を図る。
- ・公園が持つ**環境性能を可視化し、公園の価値や取組の有効性を伝える方法の検討**をする。

- ・ 北海道庁や北海道大学植物園、中島公園など周辺に広がるまとまりのある緑地と公園の緑が一体的に連続するよう、繋がり強化する。
- ・ 既存高木を活かした多層的な植栽配置とすることで、生き物の生存を支える環境を部分的に整え、都心の生物多様性の向上に寄与する。
- ・ 明治期に植栽された西6丁目のケヤキなど、大きく育った樹木については、健全な成育ができるように適切な管理を行い、大切に受け継いでいく。

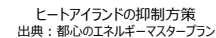
- ・ 雨水浸透型花壇等における雨水流出抑制量について実証実験を行ったノウハウを活用し、大通公園においても、芝生や花壇へ雨水浸透のためにレインガーデンやバイオスウェルなど手法の導入を検討する。
- ・ 雨水浸透の効果として、都心エリアでは特に以下の効果が期待される。
 1. 雨水流出の低減
 2. 雨水浸透と保水による植物生育環境の改善
 3. 蒸散による気温低減



- ・ 環境指標などにより公園の性能を可視化し、市民や事業者へ取組内容をより分かりやすく伝える仕組みを整える。
- ・ 都心部の象徴的なグリーンインフラ施設として、周辺開発にも良質な緑の空間づくりにつながる境配慮を進んで行う。



- 雨水の貯留・浸透を促進する地盤面の形成や水景施設の整備、緑陰形成を推進することで、ヒートアイランド現象を緩和するクールスポットを創出し、人々が心地よく滞留したくなる快適な環境空間を実現する。



- ・ 気候変動対策等について公園が持つ環境性能を可視化し、公園の価値や取組の有効性を伝える方法の検討

- ・ 水資源保全のための水使用量の削減や、国産木材・再生材の使用などの自然資本保全に配慮した公園づくり
- ・ 伐採・剪定で発生した木材等を積極的に再利用することにより、自然資源の循環利用を推進

- 公園利活用時における植栽や環境に配慮したイベント運営等を継続し、公園の持続可能な利活用を促す。

3-6. 管理運営計画

【持続可能な管理運営と活動環境の向上について（仕組み・財源・機能）】

■ 持続可能な運営体制と財源確保

- 指定管理者や市民、イベント主催者等を含む、パークマネジメント体制（協議会等）の機能を最適化し、安全・安心な公園利用のため、円滑かつ持続可能な管理運営体制の構築に努める。
- イベント占用料や協力金など、公園を起点として生み出される収益を、公園の維持管理や質的向上に直接還元できる仕組みの導入について検討する。

■ 多様な利用者の活動環境の向上

- 分散している「管理・案内・活動準備」等の機能や建築物は、現行施設の利用状況を評価した上で必要性・規模を検討する。来園者の利便性向上と、ボランティアが継続的に活動できる環境を整える。

- 現在、さまざまなイベントが開催されているが、規模や内容が異なるため、都度仮設物で対応している。設営・撤去に時間と手間を要し、準備期間中は公園利用に制約が生じている。このため、景観に配慮しつつ、準備期間の短縮や利用効率向上に資する設備の一部常設化や配置を検討する。

- 個人・団体を問わず、関心や得意分野、関与度合いに応じて参加可能なボランティアの仕組みを構築する。身近な活動に加え、申込みにより気軽に参加できるメニューを設け、多様な人々の参画を促す。

- 情報のバリアフリー化を図るために、ICT(二次元コード等)を活用し、多様な特性の利用者へ適切に情報が届くよう検討する。検討にあたっては、札幌市が設置する同様の情報提供ツールの利用状況なども分析し、大通公園にふさわしい手法を選択する。

【まちとつながる「ソフト事業」と「空間連携」について（広がり・日常）】

■ 日常を豊かにするソフト事業の展開

- 大規模イベントに加え、キッチンカーやオープンカフェ、市民参加型プログラムなど、大通公園の魅力や価値向上に資する小規模な事業を継続的に推進するための仕組みを検討する。
- 市民や企業が企画段階から関与できる実証実験の機会を提供し新たな利活用の可能性を広げる。

■ 地下・周辺街区とのシームレスな空間連携

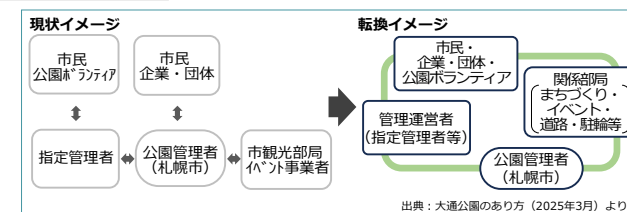
- 地下空間を含む公園周辺においても、大通公園の魅力や体感できる案内・誘導などのソフト面での連携策を検討し、エリア全体の回遊性向上を図る。
- 札幌市における公共サインの基本的な考え方にに基づき、地下鉄・地下街・地下歩行空間などとのつながりを分析し、分かりやすく、エリアとして統一感のあるサインを検討する。
- 公園の緑が街並みに連続するウォーカブルな空間の形成を推進するため、沿道のオープンスペースとの連携を深め、それぞれに機能強化を図る。

【さまざまな公民連携と手法について】

- 便益施設等のハード整備およびソフト的取り組みについて、既存のイベントや公園利用も踏まえつつ、民間活力の導入可能性を積極的に検討する。
- 企業からの寄付（ネーミングライツ、ベンチ寄贈等）やクラウドファンディングを通じ、多様な主体が直接または間接的に公園整備・管理運営に参画できる仕組みの拡充に向け、検討を進める。
- 周辺の再開発等事業の動向を踏まえ、民間事業者等と連携した公園整備の推進を検討する。

* 運営体制・仕組みの例および今後考えるべきポイント

- 効果的な管理運営を行うため、従来の画一的な行政主導の公園の維持管理から公園を経営するマネジメント体制への転換を検討する。
- 検討にあたっては、公共空間としての使い方・利用者ニーズ・大通公園が発信する価値などを踏まえ、関係者との協議を推進する。



* 事例（多機能に活用可能なパークセンター）

- 神戸東遊園地（兵庫県神戸市）のURBAN PICNICでは、P-PFIによるカフェのほか、市民活動の拠点やワークショップに使える多用途スペースの貸し出しを行っている。

神戸東遊園地
出典：神戸市HP

* 事例（ボランティアが気軽に活動できる仕組み）

- 東京都江戸川区では、身近な公園を「みんなのこうえん」として地域主体で活用できる環境を整備している。公園内に『誰でもお掃除セット』を設置し、区民による随時の清掃・水やりの実施促進を行っている。

「誰でもお掃除セット」設置状況
出典：江戸川区HP

* 事例（地域連携・小規模イベント等の推進）

- 渋谷区立北谷公園では、地域の感度の高いプレイヤー層を生かし、近隣企業と協働したマーケットイベントを定期開催するなど、地域連携による公園運営を行っている。
- 公園利用者と管理者をつなぐ仕組みとして、園内の二次元コードを読み込み、誰もがWEB上で要望を伝えられる仕組みを導入している。



渋谷区立北谷公園

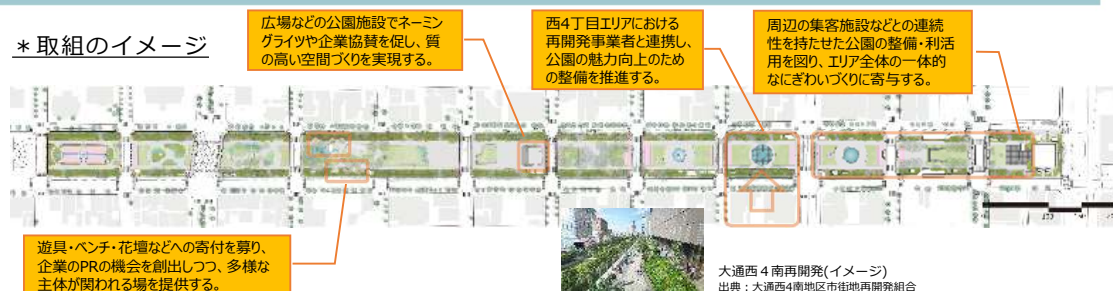
渋谷区立北谷公園における
公園利用者と管理者をつなぐ仕組み

* 事例（分かりやすくウォーカブルな空間の形成）

- 渋谷区では「誰もが渋谷を巡り歩けるようにする」ための統一的でわかりやすい公共サイン整備を目的としてガイドラインを策定。
- 仙台市では、容積緩和施策を活用する際に設ける空地には、ベンチの設置を条件としている。また、仕様は、「街並み景観を創出するデザインであること」が求められている。

渋谷区公共サインガイドライン
出典：渋谷区HP建築敷地内の公共的空間ガイドライン
出典：仙台市HP

* 取組のイメージ



基本計画の策定に向けて

- 「大通公園のあり方」に基づき、本計画において定めた「全エリアに共通するキーワード・考え方」に沿って取組を推進していく。
- 下記の重要な課題については、取組スケジュール等を踏まえ、より一層検討を深めていく必要があるため、今後の進め方や検討における視点等を整理し「基本計画 中間とりまとめ」として位置付ける。
- 課題解決に向けた取組スケジュール等の具体化に合わせ、**基本計画の策定**を進めていく。

基本計画

中間とりまとめ

- 公園全体の考え方
- 個別計画の考え方
- 今後の進め方、検討における視点等を整理

- ・民間活力の導入手法
- ・沿道との連携見通し
- ・スケジュール等

調整ができた部分から取り組んでいく

1) 周辺のまちづくりとの連携

- 憩いやにぎわいの場としての道路空間の柔軟な利活用など、街区・道路・公園が一体となった『居心地がよく歩きたくなるまち』の形成に向けて、現在検討が進められている他部局の方針等と連携を図る。
- 都心のまちづくりでは、主体的、意欲的に活動を行っている組織（団体）があるため、それらの活動状況の把握や情報共有等を図る。
- 大通公園単体で考えるのではなく、周辺まちづくりや沿道の建物の更新などと連動しながら、みどりの軸の強化の検討をしていく。

大通およびその周辺のまちづくり方針
目指すべき将来像7

大通エリアで行われた社会実験の様子

2) 民間活力の導入等に関する検討

①公園の特性に応じた適切な手法の選定

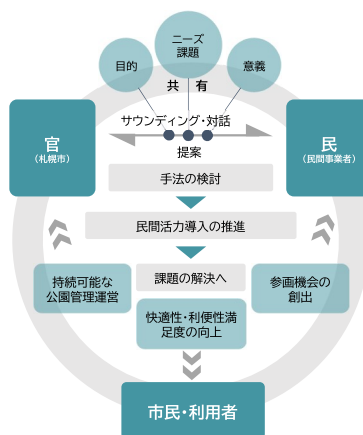
- 寄付やネーミングライツなどの「資金調達型」、Park-PFIなどの「施設整備・運営型」の手法について、導入メリットと行政と民間の双方の負担やリスクを評価して整理する。
- 民間活力の導入可能性を見極めるため、ヒアリング調査を実施する。
- 大通公園の歴史的経緯や象徴性などの固有の特性や位置付け、市民ニーズを踏まえ、目的を明確化した上で、最適な官民連携手法を選定する。

②導入対象とする範囲について

- 「大通公園のあり方」における空間形成の考え方を軸とし、将来イメージの実現に向けて民間活力を効果的に活用するため、導入する箇所や規模などの設定を行う。

③管理運営計画の推進について

- 持続可能な管理運営体制の構築に向けて、ステークホルダーとの対話や情報収集を行う。
- 多様な主体との対話や民間活力導入に向けた検討結果を踏まえ、今後の管理運営体制の検討を行う。



民間活力導入のイメージ

3) 公園施設の維持更新

①西4丁目の整備

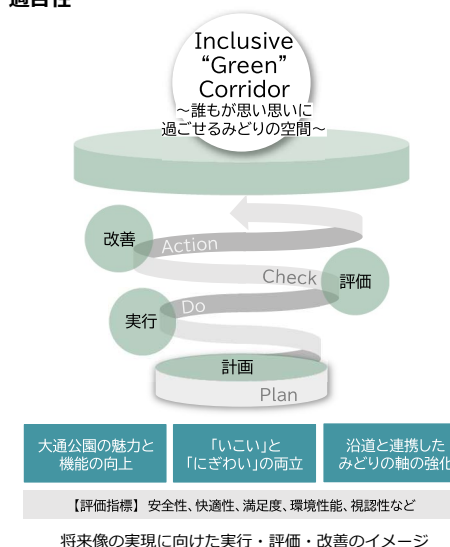
- 大通西4丁目区画については、大通西4南地区第一種市街地再開発事業の公共貢献の一環として、令和11年度の整備完了を目指し、調整や協議等を進める。

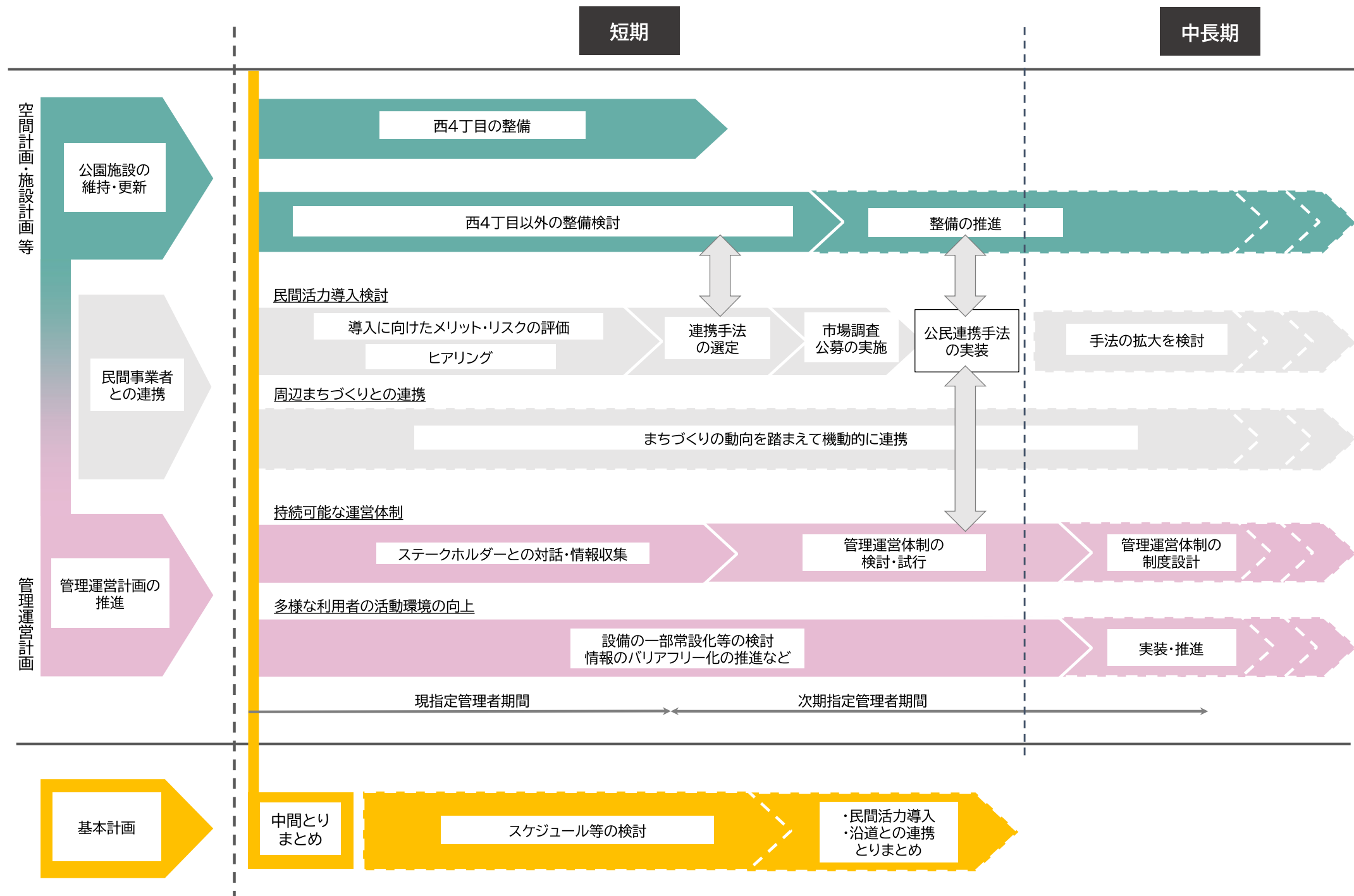
②西4丁目以外の整備

- 各丁目における具体的な整備内容及び進捗スケジュールの検討にあたっては、以下の評価視点に基づき、事業の優先度を総合的に判断する。
- 公園施設の老朽化度及び安全性の確保
- 整備効果が高いと想定される丁目
 - ✓管理運営上の課題解決への貢献度
 - ✓リニューアルに伴う周辺地域への波及効果（西4丁目の整備と相乗効果が図れる場所）
 - ✓めざす公園コンセプトの対外的な発信性
 - ✓周辺におけるまちづくり・再開発等の動向との連携
- 各種イベントの実施スケジュール等との調整・適合性

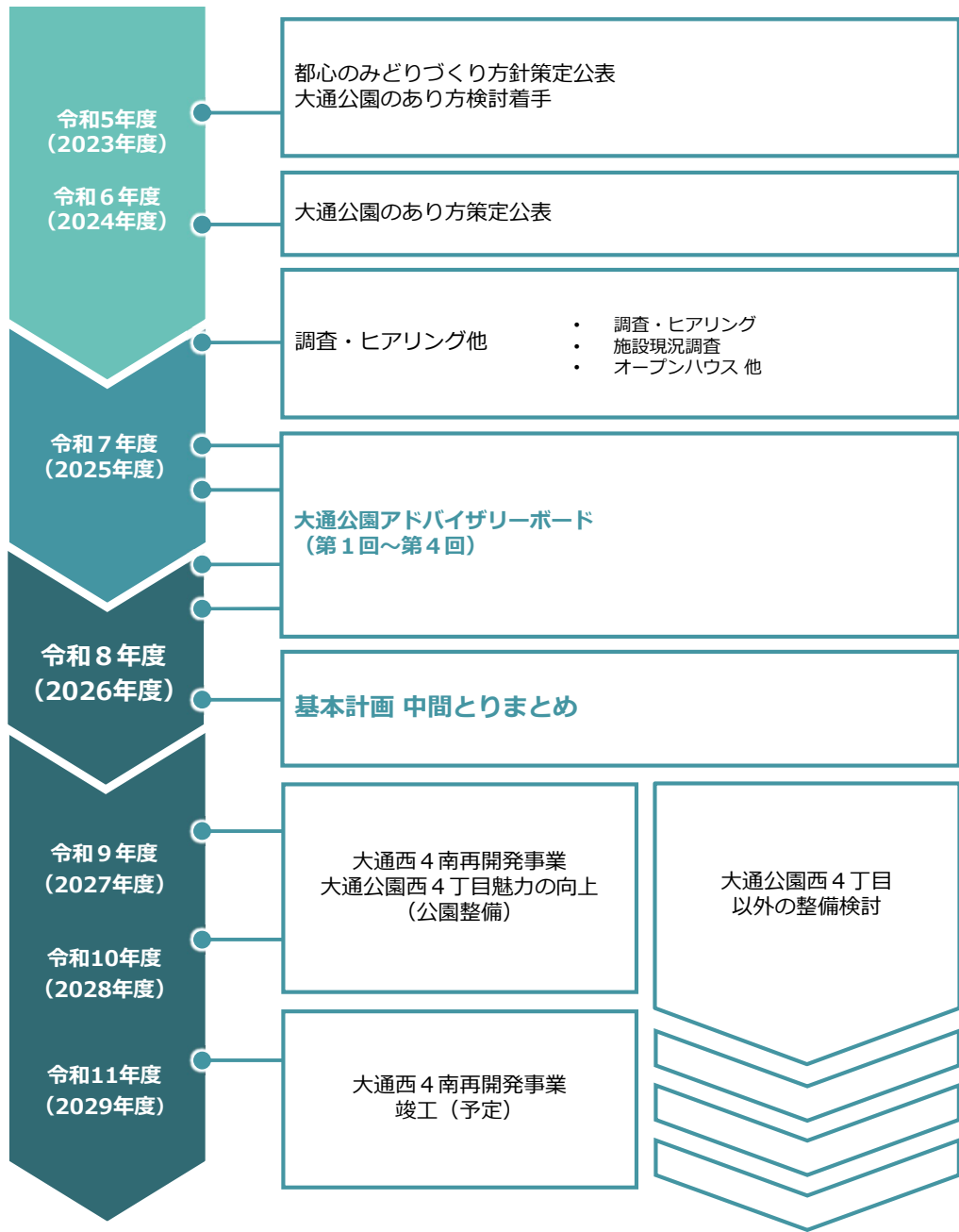
4) 取り組みの評価

- 上記の検討を深め整った部分から、公園全体の考え方及び個別計画の考え方に基づき、取り組みを実行する。
- 大通公園がこれからの時代に向けて目指す将来像である「Inclusive "Green" Corridor ~誰もが思い思いに過ごせるみどりの空間~」の実現のため、全エリアに共通するキーワード・考え方を、実装できているかを評価する。
- 取り組み内容は、「レガシーの継承・強化」「公園全体で機能するグリーンインフラ」「周辺街区とのつながり」を踏まえ、安全性や快適性を始めとした定量的、定性的に評価できる内容を検討していく。





● これまでの検討経緯と今後のスケジュール



● 大通公園アドバイザーボード委員名簿

敬称略

	氏 名	役 職	プロフィール
学 識 経 験 者	あいこう てつや 愛甲 哲也	北海道大学大学院 農学研究院 教授	専門： 造園学 公職： 第22次緑の審議会会長、第12次環境審議会委員
	まつしま はじめ 松島 肇	北海道大学大学院 農学研究院 准教授	専門： グリーンインフラ、景観生態学、緑地計画 公職： 第23次緑の審議会委員
	もり ともこ 森 朋子	札幌市立大学 デザイン学部 教授	専門： 都市計画、景観 公職： 札幌市景観審議会委員、札幌市中高層建築物紛争調 整委員会委員、第23次緑の審議会委員
	わたなべ のりひろ 渡部 典大	北海道大学大学院 工学研究院 准教授	専門： 都市計画、都市デザイン、建築計画 公職： 札幌市景観審議会委員、札幌市都市計画審議会委員
民 間	うちかわ あき 内川 亜紀	札幌駅前通まちづくり(株) 代表取締役社長	専門： エリアマネジメント (札幌駅前通地区) 公職： (仮称) 第3次都心まちづくり計画検討会委員
	さいとう ともこ 齋藤 友子	札幌大通まちづくり(株) 取締役副社長	専門： エリアマネジメント (大通地区)
	りゅう こうざぶろう 笠 康三郎	(有)緑花計画 代表取締役	専門： 都市基盤の緑地計画・設計、自然環境の保全・再生 公職： 北海道大学農学部非常勤講師

● 市民意見の報告

開催概要について

開催期間	令和7年（2025年）9月19日(金)～20日(土)
開催箇所	大通公園 西3丁目
参加人数	522名（9月19日(金)：245名 / 20日(土)：277名）
実施内容	パネル・資料の展示、職員による説明、市民意見の聴取（シール投票）、自由意見の記入



会場の様子



説明およびシール投票の様子

市民意見の聴取（シール投票）

■基本計画の策定に活かすため、市民および観光客より意見聴取を行った。

①資料の展示・説明を通じ公園の全体像を把握いただき、利用者のお気に入りスポット・大切にしたい要素を調査した。

➤札幌市民、観光で訪れた方の両方から**一番人気の高いスポットは、西12丁目**であった。今回のオープンハウスで西12丁目のガーデンの存在を知り、行ってみたいと回答された方が多数。

➤札幌市民の大きな得票数を獲得した**西8・9丁目**は、**遊具、ブラック・スライド・マントラ**の利用が多いと想定される。また、**西3丁目も大通公園の中心部として得票数が多い結果**となった。

➤観光で訪れた方は、テレビ塔に隣接する西1丁目、札幌・大通公園の中心部となる西3丁目がお気に入りスポットであった。

②**西3・4丁目の設計に反映させるため、利用者の関心の高い要素を調査した。**

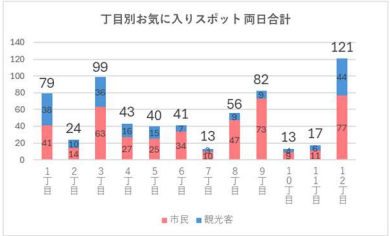
○噴水に求める機能

➤札幌市民、観光で訪れた方の両方から「**夜も楽しめる噴水**」の得票数が一番高かった。その次は「**音や動きを楽しめる噴水**」であった。

○空間（休憩施設等）に求める機能

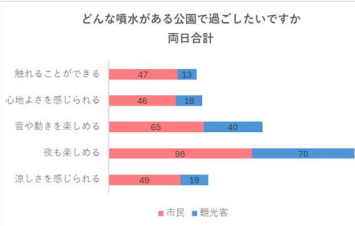
➤札幌市民は「**気軽に立ち寄れ一息つける空間**」、観光で訪れた方は「**公園の空間の雰囲気を楽しむことができる空間**」の得票数が一番高かった。市民の場合、公園でゆったり過ごせる空間を求めること、観光客の場合、楽しい空間を求めることと推察する。

丁目別お気に入りスポット 両日合計



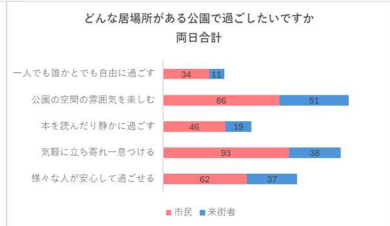
丁目	市民	観光客
1丁目	38	41
2丁目	24	14
3丁目	99	63
4丁目	43	35
5丁目	40	27
6丁目	41	34
7丁目	13	10
8丁目	56	27
9丁目	82	74
10丁目	13	10
11丁目	17	10
12丁目	121	44

どんな噴水がある公園で過ごしたいですか 両日合計



機能	市民	観光客
触れることができる	47	19
心地よさを感じられる	46	19
音や動きを楽しむ	55	49
夜も楽しめる	66	76
涼しさを感じられる	49	16

どんな居場所がある公園で過ごしたいですか 両日合計



機能	市民	観光客
一人でも誰かでも自由に過ごす	34	11
公園の空間の雰囲気を楽しむ	56	51
本を読んだり静かに過ごす	46	19
気軽に立ち寄れ一息つける	53	36
様々な人が安心して過ごせる	52	37

主な自由意見について

■基本計画の策定や現状の課題・ニーズの把握のため、市民および観光客より自由記述式の意見徴収を行った。

■市民から約75件の自由意見をいただき（※付箋に書き込まれた意見のうち、テーマが異なる2つ以上の意見はそれぞれの意見としてカウント）、それを**テーマごと**に分類し、**主要な意見**を「表-1」にまとめた。

■これまでの市民意見の傾向を確認するため、令和6年度に行われた大通公園のあり方オープンハウスにおいて得られた主要な意見についても参考として、左記の「表-2」にまとめた。

「開発の方向性」について

・先進事例を参考としながら、今の大通公園の魅力を活かしながらさらに良い空間を創出することを求める声を確認できる。

「管理」について

・既存のみどりをしっかり管理していく観点とカラスへの対策や快適に安心して過ごすことを求める意見があげられる。

「好きな場所」について

・ブラック・スライド・マントラを残してほしいという意見が多い。また、西6丁目の木陰の空間、西12丁目のガーデン空間が市民のうちのおいの空間としてピックアップされている。

「整備」について

・夏季の猛暑対策として涼しい場所（水景の活用）、冬季の雪遊びができる空間の確保を求める声が多く上がっている。また、悪天候に対応できる屋根のある空間、子どもの遊びの空間を求める声もあった。さらに、駐輪場の増設、常設のお店を求める声も目立つ。

「イベント」について

・日常とイベントの両立を求める声が多く上がっていた。一方で、季節のイベントを楽しんでいる意見、飲食以外を望む意見がある。

「その他」について

・歴史の継承を意識した計画を進めてほしいという声が上がっている。

表-1 令和7年度 オープンハウスにおける主要な市民意見のまとめ

テーマ分類	主要な意見
開発の方向性	札幌らしさを活かしながまちづくりを進めて
	今の大通公園の良さを生かしてさらに良質な空間に！
	民間の力を借りてより魅力的な空間に 収入も確保して
	海外の公園を参考にして
管理	今後も花木をキレイに管理されるといいなと思います カラスにおびえずお日様の下でお昼を食べたい
好きな場所	花がいっぱいあってきれいな公園です。
	西12丁目のローズガーデンが好きです
	中心部にきれいな公園があるのがとても良いと思います。これからも、きれいに見ていたいと思います。
	くろいすぱりだいのくぐるるするのが好き。(ブラック・スライド・マントラ)
整備	噴水、夏だけでなく冬も何らかの使い方ができるとよい！
	涼しい所、沢山ほしいです。
	屋根がほしい
	しばふがいっぱいほしい
	水の足湯とか。夏は暑かったからすずしくなる場所があるといい(子供だけでなく大人も涼しさを感じたい)
	遊具のあるエリアが増えるといい。
	未来には、アートの要素景観・造形などを取り入れると、より札幌の魅力が高まると思います。
	一人がけのベンチがあるといい
	駐輪場が色んなところにほしい！
	常設のお店があるとうれしいです
	季節のイベントも好き！憩いの場との両立を！
	イベントの集客にたよる事なく公園をいこの場としてのこしてもらいたい
イベント	イベントと日常の共存の仕方に工夫が欲しいです。
	イベントで場所を取りすぎ！
	イベントがやっていても公園内が歩きやすくてほしい!!
その他	先人が残してくれたこの場所(の意味や目的)をしっかりと理解して、プレーンな場所に。
	計画や今後の進捗がもっと市民に広かれて分かるといいと思います。

表-2（参考）令和6年度 オープンハウスにおける主要な市民意見のまとめ

主要な意見	主要な意見
開発の方向性	子供から大人まで誰からも興味を持たれる公園になってほしい
	観光客からも愛される公園になってほしい
	市民・旅行者がゆったり見ながら心や身体をくつろげる空間であってほしい
	大通公園は札幌のオアシスであってほしい
管理	施設を更新し、現在の大通公園を活用してほしい
	緑やお花のきれいで魅力的なそのまの大通公園であってほしい
	夏期は熱中症が増えているので張り紙等の対策を行ってほしい
	カラスがいない安全な公園になってほしい
好きな場所	ブラック・スライド・マントラはこれからも残してほしい
	木がいっぱいあるので6丁目が好き
	遊ぶ場所をたくさん整備してほしい
	ワークショップなどの活動ができる場所があるといい
	たくさん書あそびができる場所が欲しい
	スポーツを楽しめる場所が欲しい
	景色を眺められる場所がほしい
	悪天候でも休める場所が欲しい
	雪だるまを作る場所が欲しい
	緑や花を眺められる空間を整備してほしい
	幼児～高学年までの子どもが遊べる遊具を設置してほしい
	遊具でもっと遊べるような場所にして欲しい
整備	足湯や手湯を設置してほしい
	夏に冷たい氷と触れ合える場所を整備してほしい
	水辺の空間を整備してほしい
	みんなで作る花壇を整備してほしい
	飲食できる場所が欲しい
	自転車で公園に行きやすい整備をしてほしい
	街の安全を守る拠点になってほしい
	イベントのない日の公園も楽しみたい
	おしゃれなイベントをやってほしい
	公園内でストリートパフォーマンスができるようになって欲しい
	飲食イベントが多すぎる
	大人向けの飲食イベントが多すぎる
その他	北海道民が自分の住んでいる場所の歴史をもっと知る場所にしてほしい
	公園運営にボランティアを今以上に増やしてほしい
	市民にも大通公園の活用について意見を聞くようにしてほしい